

平成20年度 第3回 西木地域審議会会議録

一、日 時 平成21年2月24日（火）午後2時

一、場 所 「西木温泉ふれあいプラザクリオン 多目的ホール」

一、会議に出席した委員

門 脇 彰 一	門 脇 トキヨ	武 藤 晟 平	小 林 康次郎
澤 山 純 一	大 澤 博 公	浅 利 重 昭	山 田 佳 穂

一、会議を欠席した委員

小 林 清 司	佐 藤 雄 孝	鈴 木 定 平	鈴 木 重 蔵
中 村 清 春	門 脇 光 郎		

一、会議に出席した職員

西木地域センター長	加 藤 義 規
企画政策課長	高 橋 新 子
総合窓口課長	新 山 敦 晃
長寿子育て課長	高 橋 俊 一
企画政策課主査	阿 部 聡
総合窓口課総務班長	浅 利 喜一郎
総合窓口課主査	戸 村 和 子

一、会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

西木地域審議会ですり上げるべき課題の抽出について

- 4 閉 会

一、新山総合窓口課長が開会宣言

(午後2時)

欠席委員を報告し、定足数に達している旨報告する。

議事の中で前回の会議の質問事項について、お答えしますが、先に福祉事務所長寿子育て課 高橋課長に同席していただいておりますのでよろしく願いいたします。それでは、会長が挨拶申し上げます。

一、門脇（彰）会長あいさつ

お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。今年度は、本日が最後になりますので、よろしくご審議をお願いいたします。ご案内のとおり、本日の議題は、来年度における審議会の課題の抽出であります。よろしくをお願いいたします。（午後1時33分）

一、議 事

一、新山総合窓口課長

議事に入ります。西木地域審議会で取り上げるべき課題の抽出ということで、議長を会長にお願いしたいと思えます。

一、門脇（彰）会長

暫時審議会の議事の進行を勤めさせていただきます。早速ですが、始めに前回資料に基づいて、第1章から第7章の中から、皆さんから取り上げていただいたことについて、事務局から説明をお願いします。

一、新山総合窓口課長

最初に、にこにこ保育園の幼保一体ということで質問がございましたので、高橋課長から説明をお願いします。

一、高橋長寿子育て課長

福祉事務所 長寿子育て課の高橋です。私の方から前回ご質問がありました幼保一体の環境につきまして、ご説明させていただきます。

今日資料をお持ちしました。一つは、秋田県で作っている認定こども園というパンフレットと新聞の写しです。

国・県の就学前の幼児の保育または教育につきましては、このパンフレットにありますように認定こども園という制度が立ち上がりまして、簡単に言いますと幼稚園の教育部分と保育園の保育の部分のお互いの良いところを拾って、垣根を低くして、幼稚園には保育園機能を保育園には幼稚園機能を、或いは幼稚園・保育園一緒になっているところは、益々伸ばすような形で進めていきたいと思います。

このパンフレットを見ていただければ分かるように、保護者の方或いは、幼児にとって非常に望ましいのかなと思われることがたくさん書かれております。パターンとしては、西木地区については、全部保育園になっておりますので、この認定保育園にするには、保育所型ということで、保育園に幼稚園機能をプラスしていくというようなスタイルが想定されます。

現在、パンフレットの裏面にございますけれども、秋田県の認定こども園の状況ということで、実施されている地区がございます。秋田県には、保育所が250カ所位ございます。それから、幼稚園が100箇所位ございます。合わせて350箇所

所位あるわけですがけれども、その内認定こども園というのが、現在進んでいるのが12カ所という状況でございます。

現実問題としてなかなか進んでいない。なぜ進んでいないのかと申しますと、新聞の写しを見ていただきたいと思います。メリットやデメリット、進んでいない原因、或いは他の国では、どういう状況なのかというような記事がございましたので、参考までにお持ちしました。内容は、後でお読みいただきたいと思います。認定こども園ということで、一緒に進めていこうということですが、所管官庁は、従前どおり幼稚園が文部科学省、保育園が厚生労働省という枠組みは変わっておりません。秋田県の場合は、これを一本化するために、秋田県の教育委員会で保育園と幼稚園を一緒に進める所を、幼保推進課という課にまとめて事業を進めているところでございますけれども、平成18年の10月からこの制度が行われておりますけれども、20年の5月1日現在では、12箇所という状況でございます。

仙北市ではどういう状況なのかということをお知らせしたいと思います。先ほどもお話ありましたが、ここにこ保育園の保護者の方達から昨年要望書が出されております。それから議会等でもここにこ保育園について質問が出されております。それに対して市としては、地域の要望のあるところから進めていきたいという答弁をしておりますけれども、私ども今、事務的なサイドでは、認定こども園を進めるに当たって、当市では、幼稚園は教育委員会・保育園は福祉事務所、私どもの課ということで、それぞれ分かれております。この部分を組織的に一本化するのか、或いは、認定こども園の担当をどちらかにするのか、というようなことも含めまして、そういった部署の統一が必要であると考えており、教育委員会と協議に入っております。

それから、市の総合計画の中には、総合計画が作られた段階で認定こども園という制度が無かったので、これに対して市でどういった形で進めていくのか、まだ具体的なプランとして上がってございません。今後、計画の中に盛り込むことが必要であると考えております。

具体的にどういったことを行っているのかと申しますと、現在5年計画で仙北市の次世代育成支援行動計画というものがございます。少子高齢化の中で子供達をどのように育てていくのかということ、5年刻みで17年度から来年度と22年度から5箇年という計画がございます。そこで、後期計画を作るための作業を行っておりますが、その中でどういったニーズと申しますか、情報・意向があるのかということで、今年度調査を行っております。現在回収作業に入っておりますが、アンケート調査を実施しております。就学前の児童・小学生のいる世帯、それから中学・高校生向けということで、それぞれアンケート調査をしまして、その中で今後の支援対策を行っていくためにどういうものが必要なのか、ど

ういったものが求められているのかということアンケート調査しております。平成21年度で、その後の5年間でどういったことを行っていったら良いのかという調査を進めております。

その意向調査を踏まえながら、認定こども園への実現に向けてのスケジュールですとか、どういった取り組みを行ったら良いのかということを進めていきたいと思っております。

というのが現状でございます。以上簡単ですけれども、現在の状況の説明とさせていただきます。

一、武藤委員

仙北市は、認定子供園無いわけですけれども、美郷町は3つもあるということのようですが、何かメリットがあるものですか。

一、高橋長寿子育て課長

県内の状況で言いますと、特に美郷町・井川といったところは、認定子供園の制度が出来る前から行政特区という制度を使って、幼稚園と保育園を一体的に運営しようという取り組みをずっと前からやられているところです。この制度が出来たときにいち早く取り組んでいるところもございます。

それともう1つの特徴としては、今言いましたように幼稚園と保育園を同じ敷地とか、同じ建物の中で、幼稚園もやるし保育園もやると言った、そういったことを行っているところが殆どでございます。

認定子ども園の中でも、幼保一体型というのが比較的進んでおります。次に進んでいるのが、幼稚園の中に保育園機能をプラスして行う、幼稚園型の所が進んでおります。

一番進んでいないのが、保育園に幼稚園機能をプラスして行う保育所型というのが中々実態としては進んでいないのが実情です。

何で進まないかというのは、新聞等で書いてますけれども、色々それを行うための事務的な手続きの問題ですとか、それから人の確保とか、そういったところが課題となっている状況のようです。

一、門脇（ト）委員

2年ほど前に西木町のひまわりの会という読み聞かせの会があるんですが、美郷町の仙南幼稚園と仙南保育園という施設を10人程で訪問したんです。そうしたら、同じ建物に幼稚園と保育園という感じで、何かあればそのときは、一緒になっているいろんな行事をすとかというような感じで、県内でも先駆けて早くから幼保一体というような感じにはなっておりましたけれども、中身のというようなものでは、保育園と幼稚園と分かれていたような気がして帰ってきましたけれども。

一、高橋長寿子育て課長

幼保一体でやっているところは、就学前の3年間、5歳・4歳・3歳といった人方は、大体同じカリキュラムというか、午前中は同じ形で過ごしまして、午後幼稚園の人たちは、午後2時とかに上がっていきますけれども、後残った人たちは、保育園の保育ということで、5時なり6時なりまで。

3歳未満児については、幼稚園という枠組みは無いんで、その未満児の人方については、全部保育園の園児という、そういう捉え方で保育するような形でした。こういうふうと一緒にいるところというのは、就学前の3年間は、幼稚園の人たちも保育園の人たちも一緒にいる時間は同じ事をやるというような大体の流れでした。

一、門脇（彰）会長

ここにこ保育園からは要望書は出ているということですか。

一、高橋長寿子育て課長

はい、昨年頂いております。

一、門脇（彰）会長

要望のあるところから順序に行っていくと。そうすれば21年度本年度は、調査の開始作業だと。22年度から26年度の5年間に認定になれば認定保育所を作っていくと。

一、高橋長寿子育て課長

5年間というのは、次世代行動育成計画という計画年次が5年間でありまして、その中には、子育て支援の色んなことを、どういう政策なり、どういうサービスを提供していけばよいかを作るための5年間でありまして、認定こども園の部分に関して言いますと、まだ市の総合計画、実施計画の中に盛り込まれていないんで、盛り込むための作業をこれからやって行かなきゃならない。現在、市内にはへき地保育所も含めて9カ所の保育園がありますが、全部1回でというのは難しいと思いますので、そういう要望・条件の整ったところから順次進めていくというような形を想定しています。今の段階では、具体的な計画年次というところまでは至っていない状況です。

一、企画政策課阿部主査

前回の地域審議会で委員から質問のありました事項につきまして、掻い摘んで回答申し上げます。

初めに小林康次郎委員からご質問のありました、地域審議会の答申に対する意見、結果についてでございます。これにつきましては、答申内容を吟味いたしまして、地域課題の解決として行政運営に的確に反映させていくこととしてございます。昨年答申いただいた項目の中では、内陸線の存続・空き家情報の提供による定住促進・市民プール建設・国道105号の改良については、取り組みを行ってございます。その他の答申項目につきましても、協議・検討を重ね地域の課題

の解決に向け取り組んで行くこととしてございます。

次に鈴木重蔵委員よりご質問のありました、廃校舎利活用についてでございます。こちらの点につきましては、旧上桧木内小学校は、現在市役所の物品庫として活用してございます。部落会から滞在型交流施設、独居老人等の共同居住施設の要望が出されておりますが、その後部落会と活用策の内容について、意見交換を行ってございます。施設整備の他に、受け入れ農家の確保など、受け入れ態勢の整備も合わせて行う必要性があること。また、同地区には山鳩館やその他に清流苑に事業委託してございます高齢者共同生活支援事業を行っている状況の下で、地域にとって本当に必要な施設はどのようなものか部落内でもう一度検討することとしてございます。

次に鈴木定平委員からの質問で、国道105号の三共地区のガードレール設置についてでございます。粟掛地区・宮田地区を実施してございます。ただし、その間の区間が、ガードレール未設置という形になってございます。今後については、国道105号の期成同盟会で陳情等を継続して運動していくこととしてございます。

また、草峠地区に関しましては、国道用地内にU字溝を入れ拡幅にするようおねがいしているところでございます。

ソーラーの温度計が消えている問題ですが、こちらは電気を引きましてそれ以後改善がされていると報告を頂いております。

次に中村委員より質問のありました、角館総合病院の小児科の週1回診察についてでございます。現在小児科の医師は、1名の在籍でございます。この医師は、現在妊娠をされておまして、休暇に入っている状況でございます。はっきりした時期は申し上げにくいのですが、7月頃復帰の目処ということで報告を頂いております。

次に武藤委員から質問のありました、内陸線の更なる乗車運動を、という質問でございます。週末において使用されておりましたホリデー切符でございます。こちらが3月上旬まで平日でも利用できるようになってございます。森吉山の樹氷観光と合わせまして、乗車促進運動を図りたいと考えてございます。

また、通学者の利便向上を図るためのダイヤ改正の見直しを要望しているところでございます。

次に澤山委員より質問のありました、耕作放棄地についてでございます。国の制度で農業委員会が主体となりまして、耕作放棄地対策協議会を設置し、再生利用活動、施設等補完整備に交付金を交付する制度がございます。こちらが平成21年度から平成25年度までの期間で実施することとなっております。1月に耕作放棄地解消普及活動協議会が関係団体によって設立をされております。こちらで耕作放棄地の解消対策を取り行うこととしてございます。

次に佐藤委員より質問のありました、結婚の問題でございます。こちらでございますが、内陸線で独身者を乗車対象と致しまして、そうした列車を3月6日に運行することとしてございます。こういった機会を有効に利用いたしましてPRを積極的に展開していくこととしてございます。

次に大澤委員よりご質問のありました、内陸線の最終列車の件でございます。こちらは内陸線に要望内容を伝達いたしまして、3月14日から角館駅21時23分発の列車が運行することとなっております。

次に消防火災出動管轄の件でございます。こちらにつきましては、条例上につきましては仙北市全域と明記されております。合併前の体制で動いているのがそのような原因ではないかと思われそうですが、細部につきましては西明寺や桧木内・神代との関係もございまして、それぞれ消防団の方で協議をしていく必要があると考えてございます。又その旨を担当課でございます環境防災課の方に意見具申をしているところでございます。

次に門脇委員よりご質問のありました、古堀田の総合グラウンド及び市民プールの実施についてでございます。初めにグラウンドにつきましてでございます。こちらは野球場として整備することとしております。規格等のグレードは再検討するというので、内部の協議を重ねております。平成21年度予算案に実施設計書を計上してございます。事業実施は平成22年度・23年度の予定でございます。

また、プールにつきましては、平成18年度に仙北市民プール検討委員会、庁舎検討委員会の中で協議を続けてございます。新築で建設するのか、また、クリオンのプールを改築して対応するのかということを検討中でございます。21年度中に結論づけたいとして、平成22年度には実施設計に入りたいと考えてございます。

次に佐藤委員・門脇委員よりご質問のありました新市建設計画の進捗状況についてでございます。新市建設計画につきましては、その基本理念を継承しつつ、より発展的、具体的なまちづくりの指針として仙北市総合計画が策定されてございます。計画期間は平成27年度までで、本市の将来像を「産業観光を活かした北東北の交流拠点都市」と定め、「交流」をキーワードに、定住人口3万人、交流人口1千万人のまちづくりを進めているところでございます。西木地域の重要課題でございます総合グラウンド並びにプールの建設につきましては、先に申し上げましたとおり、それぞれ進んでいるという段階でございますので、ご了解をお願いしたいと思います。

次に門脇会長よりご質問のありました、上桧木内地区のネット通信についてでございます。上桧木内地区のADSL化をNTTに要望したところ、上桧木内地区までは光回線に空きがなくサービスの提供ができない、光回線の追加には設備

投資が過大で、採算が合わないため実施できないとの回答をいただいております。実現のためには、公共機関を含め、一般家庭での利用者確保が課題であり、加入希望者の取りまとめなど、上桧木内地区からの熱意が必要であることや、国の戦略が2010年までとなっていることもあり、来年度の国の動向を注視している段階でございます。

また、携帯電話機のアンテナ設置につきましては、平成21年度に戸沢地区に建設される見込みとなっております。以上でございます。

一、新山総合窓口課長

今回欠席の鈴木定平委員から国道105号の改良ということ、先ほどの答えにありますけれども、写真付きでこういう形で要望がございます。この中で特に黒沢～栗掛間、堀内～浦子内間がカーブで未改良であることから、改良について推進してくださいということで要望書が出されておりますので、関係機関に運動していくということでよろしく申し上げます。

一、門脇（彰）会長

ただ今説明を受けましたが、当然再質問があろうかと思いますが、本日は、冒頭申し上げましたとおり、来年度の会議で取り上げる課題の抽出でありますので、お含みのうえ再質問をお願いしたいと思います。暫時休憩します。

（午後2時32分）

一、門脇（彰）会長

休憩をときます。

（午後3時45分）

今日は、欠席委員も多いので、課題を出して後でその課題を文章で、今日来ていない方へも来年の課題としたいということで配布したいと思います。

何か良い言葉ありませんか。参与の方の発言も許します。内陸線の問題とか、林業の問題、観光の問題、課題として取り上げるべきものと思います。それをどこからでも入れるようなテーマにしたらと思います。

一、新山総合窓口課長

私としては、前回から話しているように「雇用促進」とかに持って行きたかったが、あまりにも世界恐慌の中で、企業誘致もままならないということですので、「西木の基盤である農林業の活性化とその特性を活かしたグリーンツーリズムや他事業の連携」を課題としてはどうですか。

一、門脇（彰）会長

今の言葉に観光とか、内陸線とか入れたらどうか。

一、新山総合窓口課長

最後にある他事業の連携が、漠然としてますが、それを含むものと思っておりますが。

一、門脇（彰）会長

何かを入れて、最後に「等」で結んだらどうか。

一、小林（康）委員

産業の振興で、若い人の働く場所があれば人口も増えてくる。そういう関連性をみていけばあまり広くなく、今新山課長が言ったとおり、産業を興して貰いたい、誰が興すかという民間企業では無理なので、市の方で積極的に行って欲しい。私は、やはり産業の振興だと思います。

一、高橋企画政策課長

市の抱えている問題は、雇用の場の確保ということで、雇用の場ができれば少子高齢化だとか、色んなものが解決されていくと思うので、行政が企業を興して欲しいとか、企業誘致については、短期的にできないものなので、地域の元気がなくなっている農林業を元気にする意味で、地域の資源を活かした、産業を再生させて、雇用の場を作っていくということは必要だと思います。

一、大澤委員

聞き流して欲しいんですが、西木地区について言えば、土地はダタみたいなものだし、人件費も安い。都会の土地の高い・人件費の高いところから、老人ホームとかを誘致できないものではないでしょうか。清流苑だけでも相当な人数の方が働いているので、雇用の場ができるとおもう。

一、門脇（彰）会長

内容としてはこういうことだと思いますが。

一、小林委員

先ほどの中に、観光という言葉を入れればよいのでは。

一、門脇（彰）会長

新山課長の言った言葉に、観光を付け加えて、来年度の課題としたらどうか。お諮りします。如何でしょうか。

—「異議無し」の声有り—

一、門脇（彰）会長

異議無しと認めます。そのような課題を設定いたします。これで審議会を閉じます。

(午後4時05分)